

【(仮称) いわぬま防災士ネットワーク設立に向けて前進】

これまで私は議会の中で「約300名余りの市内の防災士（民間資格）所有者のさらなる活用に向けての組織作り」を重ねて提案してきました。個人取得や企業、地域防災力向上のため市の助成制度を活用しての取得者もおられます。

その貴重な人材を活かすべく、昨年、岩沼市議会超党派5名の有資格議員と市内小学校区ごと2名（計8名）の防災士有志の方と共に『(仮) いわぬま防災士ネットワーク』立ち上げ準備を進めております。

目指すのは、資格取得が終わりではなく、年々激甚化する災害に備えて、「防災士として出来ること」に関して「学びを深めていくこと」

岩沼の暮らしがさらに安心安全を高めていけることを願い、今後、準備が整い次第広く防災士皆さんにもお呼び掛けを広げていきます。



【布田えみ議員活動報告懇談会を開催しました】

2026.5.16

当日は、ゲストに立憲民主党・石垣のりこ参議院議員をお迎えし、それぞれの議員活動（市政・国政）報告に続き、地域の課題など参加者皆さんから熱い貴重なお声を沢山いただきました。ご参集下さった皆さん、ありがとうございました。

皆さんからの声）
「防犯・防災・防火・『暮らしを守る』ことに力を入れて」「国内外の政治の行方为抓手している」「熊出没対策は生態の研究と共にやってほしい」・・・いずれも大切なお声、しっかりと受け止め、課題改善にこれからも共に力を尽くしてまいります。

そして、「体育センター跡地の活用について」のご意見もありました。私は考えます。

「インバウンド伸び率全国首位」の岩沼→「稼ぐ自治体」岩沼へ

- 企業誘致・出店促進・・・交通アクセスや立地に恵まれた岩沼は、まだまだ大きな可能性を生かして新たな工業団地や住宅地整備も見据え、地域経済活性化につなげていくこと
- 安心を支えるインフラ整備・・・道路・水道・下水道など、暮らしを支えるインフラの維持管理は重要。長寿命化や更新を進め、安心・安全なまちづくりをさらに進めること
- 暮らしやすさ向上へ・・・公共用地の有効活用や民間活力の導入を進め、収益は高齢者福祉や子育て支援の充実につなげていくこと



お陰様で私も議員活動19年目を迎え、日頃よりお支えいただいている皆さまに心より感謝申し上げます。そして、今年の夏も厳しい暑さが予想されます。どうぞ、しっかりと対策を取りながらお過ごし下さい。

これからも、5年先・10年先を見据え、「住み続けたい岩沼」の実現へ取り組んでまいります。

【はぐくみの部屋】

日常生活のお困り相談など、随時開催中です。個別予約制となりますので、お電話・メール（QRコード読込から）でお問い合わせ下さい。





1 「岩沼市における熊出没対策について」

熊対策強化を求めました

熊の出没増加 → 市民から不安の声・目撃情報 → 市民の安心・安全を守るため対策の強化が必要！

1 情報発信は十分？

- ・ 出没情報の共有方法
- ・ 高齢者への周知
- ・ 防災無線やSNS活用

熊出没情報
○月○日
○地区で
熊の目撃情報がありました。

2 学校・通学路の安全対策は？

- ・ 児童生徒の安全確保
- ・ 登下校時の対応
- ・ 地域との連携

3 被害防止策の強化は？

- ・ 専門機関との連携
- ・ 捕獲体制
- ・ 草刈りや環境整備

市の答弁

- 関係機関と連携し対応
- 出没情報の迅速な発信
- 安全対策を継続実施

引き続き、市民の安心安全を守る対策強化を！！

2 「日常生活用具給付制度について」

必要な支援を必要な人へ届ける視点を求め、制度改善に向けた検討を要望しました！！

障害や難病のある方への「日常生活用具給付制度」について、施設入所者が原則対象外となっている現状からえみ)施設入所中でも、ICT機器やエアマットなど生活に必要な用具を一律対象外ではなく、個別事情に応じた柔軟な対応が必要(執行部)「個別審査を行っている・施設の多様化やICT支援の重要性は認識している」と答弁し、今後の制度運用について研究していく考えを示しました。

日常生活用具給付制度について

日常生活をより快適に、安心して送ることができるよう、障害のある方に日常生活用具を給付(または貸与)する制度です。

対象となる方

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方、または難病等により日常生活に支援が必要な方

※お住まいの市区町村によって、対象や条件が異なります。

制度の内容

日常生活を支援する用具を、給付(または貸与)により利用できます。用具の種類や給付・貸与の基準額は、市区町村によって異なります。

給付 用具を購入した際に、費用の一部または全額が支給されます。

貸与 用具を一定期間借りることができます。

給付・貸与の対象となる用具の例

特殊寝台(介護用ベッド) 車いす 補聴器 情報・意思疎通支援用具(例:文字盤、会話補助機器など) 入浴補助用具 排泄管理支援用具 住宅改修(手すりの取付けなど)

利用までの流れ(例)

- 1 相談 市区町村の窓口にご相談します。
- 2 申請 必要な書類を提出します。
- 3 審査・決定 市区町村が審査し、給付・貸与を決定します。
- 4 用具の購入・貸与 決定後、用具の購入または貸与を受けます。
- 5 利用開始 日常生活がより安心・快適になります。

1 制度の詳細や申請方法については、お住まいの市区町村の福祉担当窓口にお問い合わせください。



※子育て支援・次世代育成支援の観点から次の2項目を重点的に取り上げました

1 「岩沼市こども・若者プラン(案)」について

こども・若者の声がしっかり届き、実際の支援につながる取り組みを求めてまいります。

岩沼市こども・若者プラン(案)について質問しました

「計画を作って終わりにしないこと」を重視し、特に次の4つを取り上げました。

1 子ども・若者の声をどう政策に反映するのか

アンケート

2 不登校や引きこもり、生活困難など困難を抱える若者への支援

3 教育・福祉・子育て部門の連携体制

教育 福祉 子育て

4 計画の進行管理や検証方法

執行部の答弁

- アンケートや意見聴取を行い、関係機関と連携しながら支援体制を整える
- 庁内で横断的に取り組み、指標を設定して進捗管理を行う

布田えみの意見・要望

- 声を聞くだけで終わらず、政策に反映される仕組みが必要です!
- 若者会議など当事者参加型の仕組みづくりを
- 支援が届いていない層へのアウトリーチ強化を

執行部は「今後の施策の中で工夫していく」と前向きな姿勢を示しました。

新年度から

「岩沼市こども・若者プラン」は、こども・若者が**希望ある未来へ「つながる」**まちを実現するために前進しています。

2 「中学校部活動の地域展開」について一吹奏楽部を例に一引き続き、安全に充実した部活動が展開できるよう、求めてまいります。

指導者の確保 楽器の更新費用 財源確保 etc...

布田えみの質問・提案

吹奏楽部は、指導者の確保に加え、高額な楽器の更新費用など課題が多く、学校任せでは限界がある。地域の受け皿整備や財源確保の必要性を求めました。

教育委員会の答弁

- 国の方針に基づき段階的に地域移行を進めている。
- 地域人材の活用を検討している。
- 楽器は学校備品を基本とする。
- 財源については今後の検討課題である。

教育委員会の再答弁

課題認識を共有し、他自治体の事例も参考に検討していく考えを示しました。

布田えみの再提案

吹奏楽は特にコスト負担の大きい分野であり、基金創設や計画的な楽器更新、指導者確保を含めた制度設計が必要と提案しました。

基金創設

計画的な楽器更新

指導者確保を含めた制度設計